



ネック号

第209号

発行日：令和3年6月1日
発行者：医療法人 博愛会
福田脳神経外科病院 新聞部

診察室から 増えている疾患、減っている疾患（I） 院長 福田 雄高

当院でも遂にコロナワクチン接種が始まりました。毎週木曜、土曜の午後、及び日曜も利用し、行っています。できるだけ接種が行えればと、今後も継続していく必要があるものと考えます。とはいうものの、脳神経外科としての日常診療も非常に重要です。今回は日々診療を行っているなかで、以前と比較して増えている、あるいは減っている、と日々感じている疾患に関してです。

当院は開業の脳神経外科専門病院、二次救急との立場から、好生館や大学病院などの三次救急まで担う施設とは、扱っている疾患の内容が若干異なります。主に、脳卒中、頭部外傷、てんかん、脊椎疾患、その他頭痛、認知症をはじめとした様々なものなど、がテリトリーです。

① 脳卒中 確実に増加

特に動脈硬化が原因の血栓性脳梗塞は、高血圧、糖尿病、脂質異常といった生活習慣病に伴うものです。生活習慣病の患者さんの増加、加齢に伴う動脈硬化の進行、コロナ禍という環境下で運動する習慣が減ったことは、更に動脈硬化による血栓性梗塞を助長している可能性を感じます。血栓性梗塞の患者さんは増加している印象です。高齢者だけでなく、比較的若年の方の発症も目立っています。更に、加齢に伴う、心房細動などの不整脈に伴う脳梗塞（心原性）は高齢者、特に女性に目立ちます。それだけでなく、頸動脈狭窄に伴う梗塞、時に癌に伴う梗塞なども増えている印象です。

② 頭部外傷 高齢者転倒増加

目立つのが高齢の方の転倒頭部打撲です。夜間や、あるいは、なにげない路上や玄関の段差などでの転倒による頭部打撲、頭部切創、それに伴う頭蓋内出血は確実に増えているのではないのでしょうか。それに伴い、外傷後1-2か月して起こる慢性硬膜下血腫は増加している印象です。以前は、慢性硬膜下血腫とは、中年男性のお酒をよく飲む方に特に多いなどのイメージでしたが、現状では、性別に関わらず、増加している印象です。更に、加齢、及び抗血小板剤、抗凝固剤などの血液さらさらの薬内服により、手術加療を行うも、再発するリスクは若干増加している印象もあります。

そういえばS大学の学生が、飲酒した後に転倒、頭部打撲は、

減っている様な気がします。

(来月に続く。)

北部海岸 夕暮れ (大体毎月同じ構図で写真撮っています。)

“ ¡Hasta la cuarenta de mayo, no te quites el sayo!”

(6月10日までは、ジャケットを持っていなさい!)

日本でも、6月を過ぎていくと、今年もきっと暑くなることでしょう。(写真とは全く関係ありません。)

